



敗戦でも意義は大きい

代表選手によって、熊本市立城東小学校・大江小学校の各体育館で十二チームが参加し開催されました。

誤を正する勢いでしたが、二セツトでは大差をつげられて敗れました。数字の上では二対〇でも、ほんとに惜しくも敗れた試合でした。

平川
弘子

さない決意で、ともに反合理化の闘いを進めた者同志が汗を流しあえたという、心のかよい合った交流ができて、連帯感の充実した試合でし。

応援にかけつけた主婦会員も選手団と一つになり、熊本県内の各単産主婦の会、家族組合の仲間と一堂に会し、連帯・交流が深められた大きな成果を得た大会でした。

「試合中コート内で円陣を組み、手を重ね、フアイト／フアイト／のかけ声をやりたかったけど、できずに残念」

「よそのチームもなかなか強く立派だったが、敗者復活戦があったらね」、などの声も聞かれ、「とにかく、参加することに意義があるわけだけど、次にむけて、ブロック別にもチーム編成などして、スポーツ活動なども試み、

心配された事故もなく、大会は午後三時半には終了しました。試合結果は、優勝―全通家族組合、準優勝―興教組家族会、第三位―金通三角家族会と井関主婦の会でした。

仲間づくり、活動参加の意識をつくるようにしたらどうか、との意見が出されるほど、意気盛んな一日でした。

選手団の皆さん、応援の皆さん、ひいひいさんまで。

行なわれた第七回老壮年マラソン大会に前田忠（三川・五十歳。別項の写真）さんが出場しました。参加。五十歳だけでも二百人を超える出場でしたが、前田さんは健も探炭上。仕事の合間をみて走ります。当日の記録は、三十九分四十六秒（十キロ）でした。

住まいだ
ったNさ
ん夫婦が
ーティが
始まる。久しぶりの、
懐かしい顔を前にして話が弾み、
で他人ごとのように話される。

会場は、ご厚意に甘えてMさ
ん宅である。予定通り、歓迎パ
ーティが始まる。久しぶりの、
懐かしい顔を前にして話が弾み、
で他人ごとのように話される。

ひと晩に三十煙も四十煙もテ
サイン画を描きながら勉強した
と、それなりの苦勞話を、まる
たのに、ご主人顔負けの活躍さ
れ。各人十八番の芸が披露され

小浜北班
一主婦會員

さて当日――豪華な、手作りの鉢盛りや、歓迎のためわざわざ山鹿まで買い出しにいったの、本場の馬刺しなど、地域の熱心な協力により、テーブルの上にはずらり（少々オーバ）の鉢盛りや、歓迎のためわざわざ山鹿まで買い出しにいったの、本場の馬刺しなど、地域の熱心な協力により、テーブルの上にずらり（少々オーバ）

奥さんはデザイナー関係の仕事をなさっており、売り上げのノルマを話され、いづれも同じ資本主義の厳しさの中でがんばるのだからと、あんなに話を聞いてくれた人はいなかった。そのときから、奥さんの人生は変わっていった。

改めて、お互いをしっかりと結びつけている連帯感を深く胸に吸いこまれたか、帰って行かれる後の姿は、ほんとに三池主会員のそまだった。

二度と夫や子供を

教宣部長 藤田美代子

総評主催の囲碁大会で惜敗

戦地にはおくらない

「生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることを希ひます」——のスローガンのもとに、十月二十四日午後二時より大牟田

本紙前々号で紹介した、三池の、裁判闘争を進めています。年
 谷崎さんと井口さんは、荒尾高教 末の物品販売の要請がありました
 軍備の増強をはかろうとしている 組の大橋さんとともに、県代表と ので、ご協力下さい。(職場で)

労働福祉会館において、第二十五回大牟田母親大会が開催されましたが、今回は、沖縄の安里要江さんの戦争体験を聞きました。

目の前で、次々と肉親が殺されていったことや、真っ暗な鑑乳として残っています。

ありません。だから戦争そのものの悲惨さよりも、戦後の食糧難や復員してきた父が、その後何年ものマラリア熱で苦しんでいたことなどの方が、かえってつらい思い出として残っています。

短歌
夕張災害
二十分会（三川）
町 佳郎
夕張の災害のニュース流れきぬうから揃ひし夕餉の卓に
あわただしき炭鉱（やま）の模様の写さるるごしかたにわかやまもかくありたりき

洞の中で、突發失調で死んでいったわが子を葬む場所もなく、二十四時間だいていたこと、死と向かい合った毎日の中で女の生理がとまったこと、など筆舌につくし難い苦しみを、昨日のことのように話していただきました。

九月頃だったと思いますが、テレビで、ベトナム戦争のときにアメリカが使った枯葉剤で、多数の奇型児が生まれているばかりでなく、枯葉剤をまいた方の米兵にも後遺症で苦しんでいる例のあることが、報告されていました。この

罹災者の半数は下請坑夫にて危険作業の多くを日々なしいきという
メタンガスの許容量越えて報鳴れど日々作業続けいしとう告発のあり
救出の説明を聞く人のかげに泣きぬるる少女子の顔大享しなる
「再建」の二字に保安もなきごとくつつまりは命も失い果てぬ
苦悩の論議つくして結論出でしなり注水消火六日のちに
子を死なす注水同意書に印おしし父の心よ秋雨降りつつ
サイレンの鳴り始むればおちこちに合掌する人多し注水の刻（とき）

私の戦争体験といへば、かすかな記憶の中に、祖父や父親が、薬屋根の上に落ちてくる焼夷弾を、バケツリレーで消していた姿や、戦争を放棄した日本は、いつの間にか軍備で世界八位にまで落ちたかと思うと空襲警報で起こさ

火を防ぐ技術もいまだおそまつに起これは虫ケラのごとく死ぬのみたびごとにあまたの命死なしむる資本の非道を許せずと思つわがやまも夕張と日々異なりず事故多くあまたの坑夫死にたりきいとしかる妻子（めこ）呼ぶらんか水漬きて坑内（しき）漂える五十八人の魂（たま）取明けの作業は四ヶ月あとにして哀しみのやまに雪降り初めぬ。

短歌
夕張災害
二十分会（三川）町

町
佳
郎

夕張の災害のニュース流れきぬうから揃いし夕餉の卓に

罹災者の半数は下請坑夫にて危険作業の多くを日々なしいきという

うきうき

救出の説明を聞く人のかげに泣きぬるる少女子の顔大享しなる

29

些の論議つゝして結論出でしなり。主水消火六日のうちに

8

サイレンの鳴る合はればおちこち合掌する人多し主水の刻(しずく)

(三)

火を防ぐ技術もいまだ未だに起つては中ケラのことく死ぬのみ

ふたのふ

わがやまも夕張と日々異ならず事故多くあまたの坑夫死にたりき

2540

取明けの作業は四ヶ月あとにして哀しみのやまに雪降り初めぬ。

ぬ。